

健康ファミリー

加寿夫

茂子

美男

濃代

健司 康子

第四十九話 痛くなくても怖い歯周病

加寿夫「最近歯と歯の間に物がよく詰まるようになって、つまようじが手放せんわあー」

茂子「そついえば、この間も歯みがきすると血が出るって言っとたやない。もしかしたら歯周病やない？。一度、歯医者さんへ行つて来たら」

加寿夫「おおげさやなあー。痛みがあるわけやないでほかつとけばそのうち治るわあー」

茂子「お父さん。歯周病は虫歯と違って痛みがなく進行するで、痛くなつてからでは遅いこともあるらしいよ。それに、3歳〜4歳の人のおよそ81%の人が歯周病に罹つとるん

やと。そついえば、市でも7・

8月に40歳と50歳の人は歯周疾患検診を受けれるよ。思い切つて受けてみたら」

加寿夫「そつか。ちようど、40歳で対象やで受けてみるか。でも、今からでも間に合うかなあ？」

歯周病はあまり痛みがないため放置しがちですが、歯を失う原因となるだけでなく、全身の健康にさまざまな悪影響を及ぼすことが分かってきました。

初期の段階なら適切なブラッシングを身につけるだけでも治ります。早めに受診し、指導を受けましょう。市でも実施する歯周疾患検診は、今からでも追加申し込みできます。詳しくは、今号の情報かわら版『歯周疾患検診』をご覧ください。

また、歯周疾患検診の事後指導として、『歯周病予防教室』を現在計画しています。歯周病を正しく理解し、個々に適したブラッシングを身につけることで歯周病を予防しましょう。



(39)

「わかる」ために大切なこと

ある小学校の1学期始業式。壇上で校長先生がお話をされています。勉強を頑張ること、体力をつけること、安全に配慮することなど、1年の始まりに当たつて大切なお話です。

子どもたちはクラスや担任がかわり、かなり興奮気味。隣や前後の子とひそひそ話をしている子もいます。始業式後、教室で担任が子どもたちに聞きました。「先ほど校長先生がと

ても大切なお話をされました。どんなお話でしたか？」ポカソンとしている子どもたち。手は挙がりません。「校長先生は3つお話をされましたよ。1つでも覚えている人はいますか？」1つだけなら、とら〜6人の子が手を挙げます。「う〜ん」担任はため息をつきました。

これは、特殊な例ではないと思います。どこの小学校で

も中学校でも同じようなことが起きています。幼稚園や保育園、家庭でも同じです。保護者の人なら「あなたたちはちつともお母さんの話を聞いてないねえ」とお子さんをしかつたことがあるのではないでしょうか。学習でも同じです。授業での先生や友達の話は大切なことばかり。これをしっかり聞いているのと注意散漫でいるのでは、結果は大違いです。例えば、先生が「光は1秒間に地球を7周半回るのだよ」と話をされたらとします。「この話をしっかり聞いた子は、それが知識として身につきます。隣の子とお話をしていたりノートに落書きをしていたりした子がどうなるかはいつまでもありません。」

知識に限らず、さまざまな技術や生き方も含めて、「わかる」ためにもっとも大切なことは「話を聞く」ということです。これは個人の能力以前の問題です。話す人を見て、集中して聞くことです。これは努力しただけでもできることであり、小さいころからの重要なしつけだと思えます。学校で、幼稚園や保育園で、そして家庭で、根気よくしかも厳しくしつけていくことが大切です。